

民主
PRESS MINSHU
＜号外＞
プレス民主編集部
東京都千代田区永田町
1-11-1
03-3595-9988

参議院議員
く す お
大島九州男
レポート
国会

福岡事務所
福岡県直方市知古764-1
国会事務所
東京都千代田区永田町
2-1-1
参議院議員会館910号室
電話03-6550-0910
kusuo_ooshima02@sangiin.go.jp

ホームページも
ご覧下さい
<http://kusuo-o.net/>
大島九州男
キャラクター
Qちゃん

Top 生中継 **予算委員会で質問に立つ!!**

8月11日、大島議員は参議院予算委員会の集中審議において質疑を行いました。
NHKの国会中継で全国に生放送される中、大島議員は東日本大震災からの復興に関する課題を中心に全閣僚と議論して、今後の復興のあり方について方向性を示しました。
冒頭、大島議員は福岡県直方市出身で歴代最多勝の優れた成績を残し、惜しまれながら引退した大関「魁皇」が“国民栄誉賞”にふさわしいのではないか、と総理に質問。
総理は、「魁皇」の“魁”という漢字が自身も参画した“新党さきがけ”と同じであるとして親近感を持っていると答え、関係者と意見交換をしてみたいと答弁しました。
本題である東日本大震災からの復興策に関して、大島議員は被災3県にある災害対策本部の下に、与野党の垣根を越えた「国会議員御用聞きチーム」を設けて、被災者のニーズをダイレクトに受け入れる仕組みが必要だ、としました。
この「国会議員御用聞きチーム」の提案に対して、総理から「大変に前向きな提案であり、是非とも実現したい」と答弁があり、さらには“ヤジ”ばかりが飛んでいた野党席からも同調する声が聞かれました。
今こそ、国会議員を始め国民は“こころひとつ”に復興へ取り組むべきだ、そうした機運を喚起させるテレビ中継の予算委員会となりました。



報告



相馬「野馬追」祭り
福島県相馬市で開催される全国的にも有名な祭り「野馬追（のまおい）」。
大島議員と親交のある、立谷秀清相馬市長からのご招待で議員が参加しました。
「震災前の活気を取り戻したい」相馬市民の思いが叶うよう、微力ながら全力で働かせていただきます。

報告



「復興の種」を被災地に
社団法人日本青少年育成協会（増澤空会長）が全国の児童・生徒から寄せられた被災者への応援メッセージ集「復興の種」を、平野達男復興大臣に届けました。
今後、政府機関を通じて被災地の皆様方に届けられる予定です。

解説 **「国会議員御用聞きチーム」を实践**
9度目の被災地訪問 ～仙台市若林区編～

大島議員が予算委員会で提案した「国会議員御用聞きチーム」。
写真は仮設住宅の町会長、大橋さんと意見交換をしている場面です。
大橋会長によると、8月17日現在、この仮設住宅には170世帯が入居していて、津波被害に遭われた方々が多くおられるとのこと。
雇用についてはハローワークが週に1回出張してくるので安心、高齢者デイサービスはおおむね順調、地デジ対応テレビは100%OK、など現状を聞きました。
被災地の復興に向けて、微力ながら全力で働かせていただきます。



写真) 上・仙台市若林区内にある荒浜新町の仮設住宅入口。右・町会長の大橋雄さんと意見交換。

ご案内 **予算委員会のDVDを皆様にお貸しいたします**

お仕事などで大島議員がテレビに登場した場面をご覧になれなかった方のために、当事務所では「NHK国会中継」を録画したDVDをお貸ししております。
営利目的に使用しないことを条件に皆様へお貸しいたしますので、事務所までお気軽にお申しつけ下さい。



大島事務所 03-6550-0910

意見

世界平和への誓い 8月15日のブログから

本日、66回目の終戦の日を迎えました。先の戦争で犠牲となられた内外のすべての方々に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

二度とこの悲劇を繰り返してはいけないという強い決意と、その教訓から学んだ反省を真摯に受け止め、この日本から「世界平和」を発信し続けていくことが、私たちの使命だと確信しています。

しかしながら、未だに世界では、紛争やテロ、暴力の連鎖が絶えません。その背景には、貧困や差別、人権抑圧など根深い課題があることを誰もが知っています。いまこそ、そうした根深い課題を乗り越え、私たちが「世界平和」に向かって、「こころひとつ」にまい進する時です。

終戦の日にあたって私は、日本国民の平和への理念と強固な意思に支えられた外交を柱に、国際社会としっかりと手を携えて戦争につながるあらゆる課題の解決に取り組み、国際社会の恒久平和の実現に向けて全力で働くことを誓います。



政策

カミコントツゴウ

現在、国家プロジェクトで行われているのが「カミコントツゴウ」です。

このカミコントツゴウとは、年金の紙台帳とコンピュータ記録の突き合わせ作業を示す業界用語で、マニフェストでの約束を受けて、昨年10月から国家プロジェクトとして進められています。

カミコントツゴウは現在、年間2000億円の予算規模で、約1万9000人の雇用をつくり、全国29箇所、競争入札で選ばれた民間委託形式で行われています。

昨年度(22年)と今年度(23年)の2年で集中的にカミコントツゴウを実施して、約900万件もの「宙に浮いた年金」を何とかしよう、と日々処理が進められています。

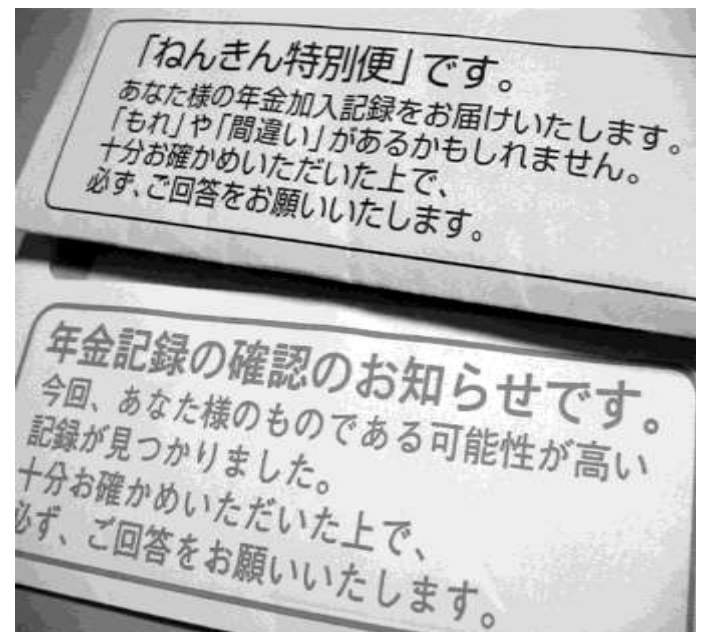
このカミコントツゴウのサンプル調査の結果を基にすると、約260万人の方の年金受取額が増えるとされています。

そもそも、なぜ年金が宙に浮いているのか、過去の問題が今でも尾を引いています。

例えば、厚生年金については昭和61年3月まで、国民年金は平成14年3月まで紙台帳で年金記録が保存されていました。その後、この紙台帳が電子化される時、コンピュータに誤って入力された等の事例が報告されています。他にも、市町村の窓口で現金によって年金を支払ったはずなのに担当者が「盗んでいた」とか、あるいは意図的に標準報酬月額を低くされていたとか、多くの問題が発覚しています。

しかしながら、こうした過去のウミを絞り出し、最後の最後まで年金記録を正確に調査して安心の老後を国民に提供することが政治の使命です。政権交代で何が変わったのか。まさに、このカミコントツゴウがひとつの例です。まだ完全な成果は出ていませんが、少なくとも、来年の春には相当の結果が出るはずで

全国29箇所、日夜行われている「カミコントツゴウ」を陰ながら支援させていただきたい、そのように思います。



政策

京都市長の意見

京都市長の門川大作氏の意見を伺うことが出来ました。話題は地域主権としての「大都市制度の在り方」と災害時の職員派遣の実態。

東日本大震災を受け、日本赤十字社を始め、多くの団体が義援金が募られています。8月2日現在で、日本赤十字社と中央共同募金会に寄せられた義援金は3086億円とのことで、多くの皆さんの気持ちが集められています。

現在、この義援金は2回に渡り被災地の都道府県に届けられています。各報道では、「未だに義援金が被災者に届かない！」という内容が伝えられていますが、正確には、義援金は都道府県にはほぼ100%届けられているものの市町村において義援金の給付事務作業が遅れている、というのが実情です。

例えば、宮城県や岩手県の沿岸部で壊滅的な被害を受けた自治体においては、行政機能自体が失われ、未だに被災状況を把握できていない箇所もあるとされています。

そうした中、全国各地の自治体から「応援」として被災地に向かう職員が多いとのこと。京都市の場合、震災直後から応援態勢を組み、ゴミ処理専門官、学校教員、精神カウンセラー、薬剤師、行政専門官などの専門部隊が寝袋と食料を持参の上、自己完結型で被災地へと向かったそうです。これまで、京都市から被災地へと向かった「応援職員」の数は、のべ1350人。京都市職員の10人に1人が1週間交代で頑張っているとのこと。他にも、兵庫県だけで4万5千人が被災地に向かった(神戸新聞)等の情報もあり、被災地へ向かう全国規模の応援に敬意を表する次第です。

こうした全国各地からの応援により被災地の自治体では、当初「遅すぎる！」とされていた義援金の給付事務が、現在では相当のスピードとなっているそうです。

京都市長の話しは、大都市制度の意見聴取にとどまらず、災害時の自治体間の応援態勢についても考えさせられる良い機会となりました。

